

研究助成（2010年度募集）研究実績報告書

代表研究者	京都大学大学院工学研究科 安寧の都市ユニット 特定研究員 吉村 晶子
研究テーマ	大規模災害時の倒壊建物等からの体系的救助救命活動のための専門訓練施設の設計資料集成の作成

< 助成研究の要旨 >

大規模災害時に発生する倒壊建物等の内部には、負傷の有無に関わらず生存者が閉じ込められたままになっていることがあるが、その救助救命活動現場は、不安定・不整形なうえ、鋭利な断片や粉塵等も存在する危険な現場である。大規模地震後においては余震の発生も想定される、このように二次災害の危険の高い現場でもあり、環境条件面においても極めて劣悪な活動環境となる。したがって、これから当該救助救命活動にあたる活動者の方々には、十分な訓練と備えのもとに活動していただくことが重要である。本助成研究は、そのための専門的訓練施設について、既往施設調査、工学的指標の検討、事例記録資料調査を通じて、これまで整備されてこなかった計画設計資料集成を作成し、データを整備するものである。

まず、国内外の主要な既往施設について施設調査を行い、設計資料の収集・分析・整理を行った。次に、施設の利活用・運用・維持管理状況について実態調査を行い、施設の計画設計における課題事項を把握・整理した。さらに、施設の主要構成要素・項目については分析・検証を行い、いくつかの設計上の工学的指標を得た。また、既往活動事例についての記録資料調査を実施し、現存するデータを収集し、これを既往施設調査結果と統合し、施設管理者や設計者、利用者らによる活用要望の多い空間構成・形状についてのデータ整備を進めた。以上により当該施設の計画設計資料集成を作成した。

現在、中小の規模のものを中心として当該訓練施設の設置が全国で進んでいるが、これまでは計画設計資料集成の不備や、規程・基準等の整備遅れなどのため、課題のみられる施設も少なくなかった。本助成研究により、求められる計画設計資料集成の資料およびデータの整備を推進することができ、これは今後の施設整備や現在の問題を含有する施設の改善に有用な成果である。

以上により得られた本助成研究の成果は、訓練効果・運用効率・安全性の面で優れる今後の施設整備に資するものと考えられ、学会報告梗概、アブストラクト査読付き学術報告論文、審査付き学術論文として国内外に発信した。